

## 世代別・職業別タウンミーティング（愛媛大学）（要約）

テーマ：学生の視点で松山市を考える

平成27年5月15日（金曜日）

【市長】 皆さん、こんにちは。私は松山の人間ですが、大学時代は県外に出ていました。今日は、授業やアルバイトなど、やるべきことが色々ある中、タウンミーティングにご参加をいただきありがとうございます。また、このタウンミーティングの開催にあたり、愛媛大学の橋本学長さんをはじめ、教職員の皆様に大変お世話になりありがとうございます。さて、このタウンミーティングは、私が市長に就任してから始めさせていただきました。市長就任が平成22年の11月末ですが、どちらが楽かという話をすると、松山市は旧松山市、旧北条市、旧中島町の41地区に分かれていますので、皆さんが市役所に来られるのを待つほうが楽です。でも、果たしてそれでいいのでしょうか。我々が出向いて行って、各地区でお困りの点や魅力を教えていただき、魅力は伸ばす、課題は減らすというタウンミーティングを重ねてきました。市長の任期は1期4年、月に直すと48カ月です。41地区ありますので、1カ月に1地区のペースで回っていければよいと思っていました。先ほど申し上げたように、魅力は伸ばす、課題は減らすということで、できることからすぐにやりました。やりっぱなしにしない聞きっぱなしにしないのが松山市版のタウンミーティングの特徴です。今日もそうですが、皆さんからいただいたご意見に対して、できるだけこの場でお答えをして帰ります。中には、皆さんからご要望をいただいても、国や県と関係する案件、財政的によく検討しないとイケない案件もありますので、いい加減な返事をして帰るわけにはいきません。そういうものはいったん持ち帰らせていただき、1カ月を目処に必ず返事をしてきました。おかげさまで好評になってきましたので、思い切って前倒しをしようと、41地区すべてを2年2カ月で回り終えて、1期目4年の中で2巡りさせていただきました。去年の11月の選挙で2期目に入らせていただきましたが、この地区別のタウンミーティングは今後もやります。市と県と国がありますが、皆さんは国の役所に行ったことがありますか。あまりないですね。県に行くことはあるかもしれませんが、市が一番身近な自治体です。ですから、我々がこの距離の近さを手放してはいけないということで地区別のタウンミーティングはこれからも続けていきます。あわせて、世代別・職業別のタウンミーティングもやります。新たな視点を入れてタウンミーティングをしようということで、愛媛大学さんで実現することになりました。今回、皆さんの傾向を知るために、皆さんがどん

なことを欲しているのか聞かせていただくと、松山市の施策、政策がどんなものか知りたいというご意見が多かったようです。できるだけわかりやすくしたいのでパワーポイントの資料をつくってきていますが、一方的なものにならないよう皆さんと約束したいと思います。皆さんに「どんな政策をやっているのですか。」と聞かれて「こんなことをやっています。」「そうですか。」で終わるのが一番やりたくないことです。まちづくりに大事なものは若者・よそ者・ばか者だからです。若者の視点は大事です。そして、よそ者。先ほど、私が「市内ですか？市外ですか？県外ですか？」とあえて聞かせていただきましたが、外からの人の目はすごく大事です。そして、ばか者。これは本当にばかという意味ではなく、突飛な発想、奇想天外なアイデアのことで、そういうものがまちづくりにすごく大事です。ですので、皆さんに最初に言うておきます。皆さんは将来の日本、愛媛、松山を背負って立つ人間です。今日は一方的に終わらせたくない。意見交換をしたいんです。なかなか即答は難しいと思いますが、「市長、そうではなくて、こういうことをしたほうがいいのではないですか。」という意見交換をしたいんです。緊張していると意見も出にくいですし疲れてしまいますので、1時間半あまり緊張せずにざっくばらんにできればと思います。我々の説明もあり、皆さんからの問いや提言もある、そういうタウンミーティングができればと思いますので、今日はよろしく願いいたします。

【司会】 本日のタウンミーティングは、前方の次第のとおり「学生の視点で松山市を考える」ということで、テーマ1：「学生に選ばれる魅力あるまちとは？」、テーマ2：「学生が松山に定着するには？」、テーマ3：「私たちができること、そして市と連携してできること」のテーマに沿ってご意見をお伺いします。意見交換を始める前に、本日のテーマ「学生の視点で松山市を考える」について市長からご説明いたします。

【市長】 では、このスクリーンを見てください。今日のテーマは3つです。まず1つ目「学生さんに選ばれる魅力あるまちとは？」、2つ目「学生さんが松山に定着をするには？」、そして「皆さん（学生）ができること、市と連携してできること」、この3つのテーマにさせていただきました。皆さん、できるだけ手を挙げてください。タウンミーティングの後、やりっぱなしにしたくないのでアンケートを取らせていただきますが、「市長しゃべりすぎ。」というコメントが一番嫌です。皆さんがどんどん手を挙げてくれたら市長のしゃべりが減ります。市長は、1時間半の独演会をするために来ているわけではないので、できるだけ皆さんのご意見をいただきたいと思います。今、私は公約にこだわりたいと思っています。

政治家は公約を掲げますが、これは皆さんとの約束です。約束をないがしろにはしたくない、皆さんとの約束は果たしていきたいです。私の2期目の公約は「一人でも多くの人を笑顔に 幸せ実感都市 まつやま」。私も市民ですから、「徹底した市民目線による行政 第二幕」ということでやらせていただいています。1 枠目が3つの「幸」です。幸せを皆さんに感じてほしいんです。幸せ実感都市まつやま。人間は、やはり健やかでないと幸せを感じられません。健やかに幸せで「健幸」という字を当てさせていただきました。まちに賑わいがないとなかなか幸せを感じられないと思います。賑わいに幸せで「賑幸」という字を当てさせていただきました。そして、皆さんと一緒に市民主体・連携で幸せ実感。行政だけでやるのではなく、一方的、押し付けでやるのではなく、皆さんと一緒にやっていくということで幸せを共にという「幸共」、この3つの柱で8つの色々な政策があるわけです。松山市は、これまでも若い皆さんの声を生かすまちづくりをやってきました。それはなぜか。松山にとって、若者はすごく大事なんです。愛媛県に4年生大学がいくつあるかというところ4つ。そのうち、松山市に全部あります。そして、短期大学が愛媛県に5つある中で、松山市には3つあります。専門学校は20校あります。4、3、20とあって、大学生、専門学校生が2万人います。2万人の活力を生かせるのと生かせないのでは、この52万人の松山は違ってきます。ですから、皆さんもご存知のように、学生さんによる政策論文や市長と語る若者会議などを実施しています。実は、愛媛大学さんとは平成19年7月に連携に関する協定を結んでいます。例えば、愛媛大学さんと松山大学さんが連携すると、防災や色々な部門でよくなります。今、山に行ったら猪などがよく出てきます。作物を育てる途中段階でおいしくないときは食べませんが、いざ収穫するときになったら猪に食べられるんです。農家の人はたまらないです。愛媛大学の農学部さんに、有害鳥獣対策の専門家の先生がいらっしゃいます。協定ができていますので、松山の農業とうまく連携ができるわけです。やはり連携ができるのは大事なことです。次に、松山の魅力です。テーマ1：「学生に選ばれる魅力あるまち」では、松山にはたくさんのお宝があり、「たからみがき」のまちづくりとあって魅力を伸ばすまちづくりに取り組んでいます。若い皆さんにとって魅力あるまちとはどういうものなのか、率直にご意見を伺いたいと思います。テーマ2：「学生が松山に定着するには」。できれば若い皆さんに松山に定着していただきたいと思っています。松山の魅力で学生さんを定着させることができるものなのかどうか。テーマ3：「学生ができること、市と連携してできること」が最後です。今、地方創生とよくいわれるようになりました。なぜかというところ、東京に

一極集中しすぎたからです。今、日本は人口減少社会といわれますよね。実は、47都道府県の中で赤ちゃんが生まれる率が一番低いのが東京です。あれだけ若い男の人や女の人が多く、出会いの場所もたくさんある東京なのに、子育ての環境が整わないからか、東京の合計特殊出生率は1.13です。東京に集中していくと人口減少に歯止めがかからないわけです。ですから、地方が光っていくことが大事で、松山市でも地方が光れば日本が光る、一極集中から地方へ日本の人口減少に歯止めをかける松山市ということで色々な取り組みをしています。前置きが長くなりましたが、私からの説明は以上です。

【司会】 続きまして、本日のテーマに沿って意見交換に移ります。それでは、テーマ1：「学生に選ばれる魅力あるまちとは」についてご意見のある方は挙手をお願いします。

【女性】 法文学部総合政策学科です。先ほどのプレゼンで、松山市の魅力というスライドがありました。私は県外の出身ですが、市民の方は、松山市が推している道後温泉と松山城には絶対行ってほしいと言われています。松山市は、再来年の子規と漱石の誕生祭であるとか、「坊っちゃん」などを推しています。私は今観光まちづくりを勉強していますが、それを推したときに、若い学生などが松山を選んで観光に来るかといわれたら、来ないと思います。それはなぜかというと、今の若い人は「坊っちゃん」を知らないと思うからです。このまま推していったら、松山市は若い人には選ばれない、魅力のない観光地になってしまうと思います。もっとほかの資源を再発掘していくべきだと思いますが、そこはどのようなふうを考えているのかを教えてくださいたいと思います。

【市長】 最初から厳しい意見が出たなと思っています。今朝、話していたのですが、俳優の中村雅俊さんが主演の映画「坊っちゃん」がつくられてから、その後はつくられていないと思います。例えば、また「坊っちゃん」を映画化すると色々な世代に知ってもらえるなど、ある人と話していたところです。夏目漱石さんが松山に赴任されてちょうど120年なので、愛媛新聞さんが連載してくれています。我々もとてもありがたいなと思っていますが、今、松山市は若い世代に来てもらうため、修学旅行生の誘致を進めています。時間があって、お金も持っているのは、シニア世代の方ですが、若い方々はもう来なくてよいということではいけませんから、若い方々にも来てもらおうということで修学旅行の誘致を進めています。実は、松山市の修学旅行は平成17年は0校でした。平成26年度は62校、約1万人の修学旅行生が来るまでになりました。今、松山市はかなり観光に力を入れてやっています。昨日、ミシュランガイドブックの若緑色のカ

ラーになった路面電車が走り出しました。松山市は、国から新ゴールデンルートに選ばれています。これは海外のお客様にお勧めするルートで、一番のお勧めのルート、東京・富士山・京都・大阪のことをゴールデンルートといっていますが、新しいゴールデンルートは京都・広島・松山です。なぜそこまで評価されたかという、松山市は広島・松山の航路を使って、修学旅行生をここまで増やしてきたので、そういうところが国から評価されて、京都・広島・松山となりました。皆さんも修学旅行に行ったことがあると思いますが、学生さんは北海道や沖縄に行きたいと思うんです。何となくわかります。沖縄には美ら海水族館などがありますし、平和学習にもすごくよいと思います。北海道に行きたいのもわかります。でも、そうなる移動手段は飛行機です。大量輸送手段というとJRです。新幹線が16両だとしたら、1両に100人乗れるとして、1600人が同時に定時で移動できるのがJRの新幹線です。飛行機は速いですが、JRは大量輸送ができます。もし、皆さんが修学旅行生と一緒に飛行機に乗っていたら、結構賑やかです。修学旅行生は、飛行機が飛んだ瞬間に「わーっ」と言います。修学旅行で飛行機を使うのはなかなか難しい話です。そうなるJRや船などがよくなります。広島には原爆ドームや宮島があって、多くの修学旅行生が来ていましたが、学生たちは北海道や沖縄、東京ディズニーランドに行きたいので、少し減ってきています。広島で平和学習をしてもらうことは非常に大事なことです。広島市さんと一緒になってこういう動きをして、修学旅行生を増やしてきています。そして、修学旅行生は将来の旅人口を増やします。中学生・高校生のときに松山に行って、「道後に行って良かったね。今度また行ってみようか。」と行っていただくことができ、将来の旅人口の増加につながるので、修学旅行の誘致を進めてきました。松山市も若い人に対する動きをしています。今のままだと、将来若い人が来なくなると危惧していらっしゃると感じましたので、松山市としてしっかり色々なところを魅力アップしていき、発信していこうと思っています。

【男性】 教育学部国際理解教育コース2回生です。僕は、コースにちなんでグローバルな視点からアプローチさせていただきたいと思いますが、アメリカのニューヨークタイムズ紙の「52 Places to Go in 2015」に選ばれていたのは僕も知っていました。僕は、来週アメリカから来ている交換留学生と一緒に、この道後温泉を訪れた後に交流させていただくプロジェクトに参加させていただきます。僕は海外から来た色々な国の方々と交流していますが、お遍路などすごくニーズがあり、ここを推していく

だけでもすごく人口を取り込めると思います。学生に選ばれる魅力あるまちづくりについて、学生から取り込むのではなくて、まず外国人、次に留学生を連れてきて、最後に学生というのが海外アプローチとして一番早いと思います。理由としては、外国人が多く訪れ、県外の学生や多くの人々に知ってもらうこと自体に魅力があるし、ほかの社会人の方などにもたくさん訪れてもらえると思うからです。四国八十八ヶ所は四国だけの特別な魅力だと思うので、ここに関するアプローチをもっと市からすることができたら海外からの留学生を増やせると思うのですが、そこに関してはいかがでしょうか。

【市長】 ちょうど今、私が思っていたところですが、皆さんに協力してもらいたいんです。実は、外国人観光客の方をもっとお迎えしていきたいのですが、言葉を話せる人が少ない状況です。愛媛大学の留学生の方、もちろん松山大学の方でもよいのですが、学生さんに力を貸してほしいと思います。人生80年、この平均寿命の中で一番言葉が堪能なのは大学生の世代だと思います。私の考えですが、留学生の方にガイドをしてもらえないかと思っています。そして、皆さんにもガイドをしてもらえないかと思っています。というのが、松山には来てもらえますが、外国語でガイドできる人が少ない状況です。そこでガイドをしてもらえたら、お客さまの満足度は非常に高くなると思っています。県外から愛媛大学や松山大学に来られますが、4年間の中で1回も松山城に行かなかった、坂の上の雲ミュージアムに行かなかった、松山城二之丸史跡庭園、考古館、子規記念博物館にも行かなかったという学生さんがいるということを経験させていただいてから聞きました。そのまま巣立って行ってしまったら、全く松山に愛着を持たないままになってしまいます。これはあまりにももったいない。松山を好きになってもらおうということで、松山の文化施設に1年間無料ご招待を始めました。ぜひとも行ってください。こういうふうに連携させていただいていますので、できれば皆さんには松山の施設を体験してもらいたい、松山のことを好きになってもらいたい、案内できるようになってもらいたいと勝手に思っています。まだ愛媛大学さんと深い話はしていませんが、留学生の方がいらっしゃいますよね。例えば、国費で来ている留学生の方は大変優秀です。国に帰られたら、将来国の中心的な人物になれる。そういう人たちに松山のことを大好きになってもらおうと、将来国に帰っても中心的な人になりますから、その人たちから松山のことが広がっていきます。ですから、大学に来ている留学生の方に松山のことを好きになってもらって、いざそういう国の方々が来られたときに案内をしてもらえないかと思っています。留学生の方は自分の国の言葉だけではなく、英語も

堪能だったりします。できればそういう仕組みをつくって、留学生の方に案内をしてもらえると、海外の方の顧客満足度がぐっと上がるのではないかと思います。別に留学生の方だけでなくいいんです。大学生で英語がしゃべれる人は貴重ですから、そういう方々にやってもらえたらと思います。それほどお金は出せないかもしれませんが、バイトとしてやってもらうことができるかもしれません。市長としては、ぜひとも松山のことを好きになってもらい、そして好きになる人を増やしていければと思います。どんどんその話は広まっていきますので、「松山に行ってよかったよ、今度行こうか。」ということにもつながりますので、そういうことができないかと思っています。先ほど、せっかくなので意見交換しようと言ったばかりですが、若い人に松山に来てもらうために何かやれることはないですかね。「市長、今そこが足りてないよ。こういうことやったらどうかな。」というご意見はないですか。

【女性】 坊っちゃんや道後温泉、松山城以外にも道後の裏道などもっといいところ、人々の生活を見てもらいながら、市民の人がどのように道後と生きてきたのか、そういう見方をしていくとよいのではないかと思います。

【市長】 まさに方向性は同じだと思います。我々が、今大事にしたいのは松山・道後の滞在性、回遊性です。道後を回遊してもらい、一泊ではなく二泊、三泊してもらいたいと思っています。一泊するのと、二泊、三泊するのでは落とすお金の額が変わってきます。そこで、滞在性や回遊性を高める取り組みをしていますが、JTBさんと一緒になってつくっている商品に「松山はいく」というものがあります。松山のまちを歩きながら、ところどころで俳句を詠んでもらう商品で、松山はいくの「はいく」は5・7・5の「俳句」とまち歩きの「ハイク」、INGを付けたらハイキングと掛け合わせていますが、まち歩きメニューはまさに有効な手段ですので進めていきたいと思っています。

【女性】 愛媛大学法文学部4回生です。私たちのように今松山市に住んでいる学生が、将来松山市を選ぶようにするためにはどうすればよいかということで、今回メールでアイデアを送らせていただきました。そのときに、公共施設である図書館を学生だけではなく色々な世代が集まるようなコミュニティスペースや複合的な機能や柔軟性を持たせた施設にして、学生が活動に携わる中で魅力に気づいていけるシステムをつくったらおもしろいと思って意見させていただきました。今、市長に「松山はいく」のお話をさせていただいたときに、将来学生が松山を選ぶにあたって、まち

歩きする中で、人に触れることで魅力を感じると思ったので、松山で頑張っている大人たちをピックアップして、今住んでいる学生向けの「松山は行く」のようなツアーをつくって、職場見学ではないですが、まちの方や職人さんと触れ合える機会や政策があったらすごくおもしろくなると思ったのでアイデアとして提示させていただきました。

【市長】 地元の人を紹介して、触れ合えるようなメニューですね。ありがとうございます。1つのアイデアだと思います。今聞いてみたいことがあるので、手を挙げてください。松山城に行ったことがある人は手を挙げてください。大体手が挙がりますね。では、道後温泉本館に入浴したことがある人は手を挙げてください。やはり半分くらいになりますね。皆さんや地元の人にもっと道後を体験してもらいたい、味わってもらいたいと思っていますが、なかなか地元の人が行かないんです。今のところの予定では、平成29年の愛媛国体が終わると道後温泉本館は改修工事に入ります。全く入れなくなるわけではないですが、地域経済への影響も大きいので、できるだけお客さまが減らないようにしていきたいと思っています。そこで、なぜ道後温泉に行かないのか、道後温泉に入らないのかを聞いてみたいです。なかなか手を挙げるににくいと思いますが、教えてください。

【女性】 法文学部総合政策学科地域コース3回生です。道後温泉に2回入らせてもらいました。「おんな一人旅に人気の温泉地ランキング1位」ということですが、一番上のランクになるとシャンプーも付いていてみかんの石けんも置いてありますが、それより下のランクになると、シャンプーなどは備え付けがなく、またタオルも1枚しかなかったので、若い女性や若者に来てもらうには、あまりおもてなしの意識が感じられないという印象を受けました。使ってみたらシャンプーなども髪がギシギシする感じだったので、もっと若者に来てもらいたいと思うのであれば、いい香りのものとか、質のいいものを備え、ボディソープなども付いていたほうがふらっと入りに行く人もいます。ホテルと比べるとどうかと思いますが、ホテル椿館に泊まったことがあり、そのときは化粧台や綿棒などアメニティも充実していて、清潔感もあり、タオルも自由に使えました。設備を充実させないで、もっと若者に来てほしいというのは無理があると思いました。

【女性】 法文学部人文学科4回生です。先ほどの女性の意見とも関連しますが、私は道後のホテル椿館でバイトをしています。道後温泉に行くときに、ホテルに泊まるお客さんは、玄関に湯かごがあって湯かごの中にタオルと石けんが入っていて、それを持って行きます。道後温泉の中には、タオルや石けんがないことをこちらからお伝えするので、ホテルに泊まっ



ている観光客の方は自分で持っていきます。けれども、例えば新入生で松山をよく知らない人は、そういうことを知らないので、道後温泉に行って備え付けのものが何もなかったという状態になりやすいと思います。道後温泉にもシャンプーとかアメニティが付いていたらもっと行きやすいのではないかと私は思いました。あと、松山市民の方にとってみると道後温泉本館は観光客向けで、椿の湯のほうが入りやすいこともあるのだと思いました。

【女性】 法文学部です。私はよく温泉に行きますが、道後温泉にはまだ1回も行ったことがありません。私はずっと松山に住んでいますが、道後温泉に行こうというより「キスケの湯」や「そらとり」など色々な温泉があるので、そちらのほうが交通の便でも市街地に近いという意味でも行きやすいと思うので、周りにもそういう友達が多く、あまり道後温泉に行かないのではないかと思います。

【市長】 ありがとうございます。いわゆる郊外型のスーパー温泉と申しますか、「媛彦温泉」さんや「星乃岡温泉」さん、「そらとり」さんや「キスケの湯」さんなど10ほどあると思います。これも松山の特徴だと思いますが、逆に道後温泉本館でないと味わえないものを伸ばしていくことが大事だと思います。皆さんに質問です。道後温泉本館でしか味わえないものは何でしょうか。手を挙げて言ってもらえるとありがたいです。

【男性】 法文学部地域コースです。よろしくお願ひします。僕は、道後温泉も松山城も好きで何回か行かせてもらっています。道後温泉にわざわざ行く理由は、僕はにきたつの道のほうから道後商店街を通って行きますが、あのあたりから温泉に向かうまでの道が好きで、観光客の方が浴衣で歩いていたりするのは、ほかのキスケの湯などの周りにはないので、そういう人たちを見ながら最終的に道後温泉本館がアーケードの最後に見えるのが非常に好きで、たまに行かせてもらっています。何をしたらよいかというのは、案として難しいとは思いますが、景観的に近代的なビルが道後温泉本館の後ろに側にずっと並んでいたり、途中でパチンコ屋があったりするところをもう少し道後温泉にあうイメージにしていだけたら、もっとよいところを伸ばせると思います。

【市長】 はい、ありがとうございます。道後温泉本館でしか味わえないものや道後の魅力は何だと思いますか。今もよいご意見をいただきました。実は、私の父親が県職員だったもので、愛媛大学さんの近くの松山市立清水小学校の入学・卒業で、中学校は伊予三島に行きました。伊予三島の友達はあまり道後温泉に行ったことがない方が多いです。前の仕事でアナウンサー時代に「もぎたてテレビ」という仕事をしていまして東予や南予へ

行きましたが、案外、東予や南予の人は道後に行ったことがないんです。そういう人たちにももっと道後の魅力を味わってもらいたいなと思っています。シャンプーで髪がキシキシするのは、女性の方の生の声ですよ。私はもう皆さんのお父さん世代ですから、あまりそんなことを気にしませんが、確かにそれはあると思います。タオルのこともドライヤーのこともあります。今、少し考えていることがありまして、松山市営の湯は道後に2つあります。道後温泉本館と椿の湯ですが、椿の湯は30年経っていますから、だいぶ古くなっています。手を入れてもいい時期になっています。3年だとまた話は違います。椿の湯はリニューアルするので、近々こうなりますというのが出てきます。そのような中で愛媛国体を迎えますが、まだ工事に入っていない道後温泉本館とリニューアルされた椿の湯の両方でお迎えをして、今のところの予定では、愛媛国体が終わったら道後温泉本館の耐震工事に入る予定です。では、道後温泉本館の工事が終わったらどういう価格設定にするか、どういう装備にするかも考えていかななくてはいけないなと思っています。椿の湯もどういう形にするのかを地元の方々と一緒に進めていっていますが、色々な方向でお客さまを増やす方法を考えています。もう少し待っていてください。市の道後温泉は国の重要文化財です。国の重要文化財というのも1つの特徴ですね。「千と千尋の神隠し」の湯屋のモデルの1つになっているのも道後温泉の特徴だと思います。源泉かけ流しの湯というのも道後温泉の特徴ですね。あと、最後に1つだけ。景観整備の話がありました。昔は、道後温泉本館の前は車が通っていました。今は知事になられた前市長の中村時広さんのときに景観整備をしまして、今は車が通らなくなりました。松山市はこの道後の景観を大事にしたいということで色々な取り組みをしています。昔は本館の前を車が通っていたので、道後温泉をバックに写真を撮ろうと思うと命がけだと言われていましたが、今は命をかけなくても撮れるようになりました。そういう景観整備を進めているところです。貴重なご意見いただき、ありがとうございました。

【男性】 法文学部総合政策学科2回生です。どうぞよろしくお願ひします。学生が松山に定着するにはというところで、まず自分の体験を話したいと思います。自分は広島から松山に引っ越してきて愛媛大学に入りましたが、賑わっていないという印象を受けました。それはどういうところかという、大街道とか銀天街を含め松山市の一番中心地となる部分に、あまり人がいない、賑わっていないというところがあり、松山に友達や家族が来たときに紹介できるところが正直少ないところです。道後温泉などに

連れて行くことはもちろんできますが、2日目や3日目になると、どこに連れていったらいいのだろうかと考えてしまいます。街中に何も行くところがなくてチェーン店のようなラウンドワンだったり、そういったところに行ってしまうので学生が定着しないのか、楽しい部分が少なすぎるのではないかと感じました。それに対する今後のイメージを教えてください。

【市長】 はい、わかりました。確かに広島と比べられるとつらいというところはあります。実際にそうだと思います。日本経済新聞にも出たと思いますが、エイトワンさんという企業が梅津寺にある伊予鉄道さんの土地ですが、その土地を開発しようとしています。エイトワンさんは、道後商店街で今治タオルなども販売していらっしゃいます。道後温泉本館の東側に、愛媛大学の先輩である大藪さんがやっている「道後やや」という宿泊施設があります。ここで、深い話であり皆さんが意識していない話に入っていこうかと思いますが、公でやることか民間でやることかという話があります。少し深いテーマになってきます。松山市としてはできるだけ民間の皆さんの力を引き出したいんです。公で箱物をつくる時代は、もうかなり難しい時代に入ってきたと思っています。国が1千兆円の借金を抱えているのは勉強していると思います。昔の高度経済成長時代であれば人口も増える、財政状況もいい、そういう時代だったら、公がどんどん箱物をつくってもよかったかもしれません。でも、今は人口減少社会に入って税収も厳しい中で、行政が箱物をつくっていく、郊外に大きい道路を伸ばしていく、下水道をどんどん整備していく時代ではなくなってきました。これは私たちよりも皆さんが大いに関係する話です。公がものをつくったら20年や30年は持ち続けられないといけない。ということは、維持管理費がずっと要るわけです。維持管理費を誰が払うのかといたら、皆さんが税金で払うわけです。公でつくったら、最初にイニシャルコスト、そしてランニングコストがかかります。最初にもものをつくる時には税金でつくるわけです。維持管理をしようと思ったら、ずっと税金が投入され続けるわけです。元に戻りますが、公ですべきことと民間がすべきことがあります。民間の人はものすごくシビアに判断しています。もうけられるのかもうけられないのか。ラフォーレ原宿松山はお待たせをしました。5年9カ月の空白期間がありましたが、いよいよ夏にオープンします。1階と2階はテナントで3階と4階はブライダル、5階から13階がホテルでようやく開発が決まりました。3階まで魅力のあるテナントができたらいいのと思うかもしれませんが、3階になるとお客さんが少なくなります。1階・2階はお客さんが来やすいじゃないですか。1階・2階はテナント、3階・

4階はブライダル、5階から13階がホテルで、これだったら利潤がでてもうけられるということで決まりました。このように、公がやることとシビアな民間がやることを判断し、もし民間がやるのであれば公がどうサポートできるか考えていくことが公のやるべき仕事になってきます。確かに広島市さんに負けないようにやっていきたいと思いますが、やはり身の丈に合ったことをしていく、皆さんと一緒に知恵と工夫でやっていくことがすごく大事だと思っています。あと、1つだけ。今、私の前にペットボトルがあります。愛媛大学の皆さんにお伝えしたいのは、他所から来られて、松山市はごみの分別が面倒くさいなと思ったかもしれません。松山市では、「キャップとボトルとラベルを別々にして出してください。」と言っています。それはなぜか。このまま捨ててしまったらごみですが、分別して出してもらおうと資源です。実は、スーツもこのペットボトルでつくることができます。ネクタイもペットボトルでつくることができます。このペットボトルの本体だけで出してもらおうと、リサイクル業者さんが高い値段で買ってくれます。このまま出してしまったらごみですが、分別して出してくれたらリサイクルの原料にもなります。だから、そういう取り組みをやっています。もう1回公の話、税金の話に戻ります。ごみが多いのと少ないのはどちらがいいかという少ないほうがいいですね。義務的経費といいますが、ごみを出すとごみを処理する人の数が要ります。ごみ収集車が要ります。ごみ焼却施設が要ります。ごみが少なかったらごみを集める人の数も少なくてすみませす。ごみ収集車の数も少なくてすみませす。ごみ焼却施設も長持ちします。全部税金でやっています。決まった財布の中でやらないといけないので、そういう義務的経費を減らすと、政策的な経費である福祉や教育や観光に充てることができます。だから、松山市は少し面倒ですがそのようにやっています。松山市は50万人以上の都市の中でごみの排出量が全国最少です。8年連続で全国最少を記録しているのが松山市です。皆さんも協力してください。2番は広島市さんでした。実は広島市さんとの差が1日あたり1円玉3枚の3グラムくらいまでに迫っていますが、何とか頑張って8年連続まで記録を伸ばしています。皆さん、公がすべきことか民間がすべきことなのかを少し意識してもらおうと思います。民間の力を引き出していきたいですね。

【女性】 こんにちは。法文学部総合政策学科4回生で就職活動中です。今回申込みをする際に案として出した意見は、松山市の中小企業などの雇用を松山市に住んでいる愛媛大学や松山大学などの学生さんたちに推進することで、将来的に松山に残って松山で学んだことをじかに生かしてく

れる人材が松山に定着してくれるのではないかということです。先ほどのお話ともつながると思いますが、中小企業などと連携し、公の機関として松山市役所が学生に対して雇用を促進する政策などがあれば教えていただきたいと思います。

【産業経済部副部長】 雇用対策ですが、雇う側と雇われる側の2つの対策になります。松山市としては、まず仕事先をつくり出していくことが大事だと考えます。そこで、地元企業の応援として、地域にすでにいらっしゃる企業の方々、大企業や中小企業をはじめ、そういう方たちに支援をさせていただくことで雇用の拡大に努めています。そして、上に市長がトップセールスをしている写真がありますが、私たちが他所から雇用ができる企業を引っ張ってくる、市外からの企業を誘致するという取り組みを合わせて企業立地をしています。この結果、平成13年度の条例施行以降、支援、応援させていただいた企業さんは72社、延べ4,800人の雇用の拡大につながる取り組みができました。また、新たに創業を始めていただくために、「松山銀天街GET!」の4階の「まつやま経営交流プラザ」で起業したいとか経営の問題などを専門家の指導のもとで色々相談していただいています。これはハローワークの隣にありますが、月平均700人の方が創業相談やセミナーの利用に訪れています。昨年度までに17名の創業者と書いてありますが、最新の数字では4月末で22名の創業者が誕生しています。内訳は男性11名、女性11名で、少しずつですが雇用をつくる努力をさせていただいています。それともう1つご紹介させていただくのは、雇用条件の改善です。これから就職を考えるときに色々な意味で雇用条件が心配になったりします。大企業であれば充実していますが、中小企業ではなかなかカバーできない部分を応援させていただいています。「ワークCom松山」のホームページを出していただけますか。「ワークCom松山」は、正式には松山市勤労者福祉サービスセンターといいます。愛称をワークCom松山といいます。これは全国に201カ所ありまして、中小企業の方々が加盟をしています。現在約650の事業所、約6,000名の方々にこのワークCom松山に加入いただいています。中小企業ではなかなか厳しい福利厚生が、大企業並みの福利厚生になるべく近づくようにしています。例えば、お子さまの入学金や長期勤務されたときの御祝金、健康診断や人間ドックのときの補助などです。映画館を利用したときの料金は、大人の方は1,800円かかるとは思います。800円で入れます。ここに加入していればそういうサービスなどを、中小企業の方でも受けられます。これを市が直接やっているのが、全国の自治体でも10カ所しかございません。大変ですが、松山市はこれを行っています。

【男性】 法文学部総合政策学科2回生です。よろしくお願ひします。テーマ2についてですが、僕も雇用の面からお話したいと思ひます。先ほど起業の話もありましたが、もう少しサポートの体制が欲しいと思ひます。僕は2回生ですが、1・2回生の間に、就職とか起業に対するモチベーションを高める仕組みができるのではないかとと思ひます。産学官連携が一番よいと思ひていて、企業や市の方から何かアプローチすることができないかと考えています。この前中小企業家同友会へ行かせていただきましたが、そこでは起業がしたい学生に対してアドバイスもしてくれます。それを大学の講義でしていくなどサポートできないでしょうか。また、千葉大学や茨城大学などの他大学でも起業に関してものすごく力を入れているみたいで、ベンチャービジネスに関しての事務局みたいなものをつくって、起業したい人に、市や起業家の方から全面的にバックアップをしたりする仕組みが完全に出来あがっています。こういった取り組みで、起業したい人が増えれば、松山に定着してそのまま企業をつくるかもしれないし、その企業をつくることによって、極端な例ですが、テレビなどで報道されてクローズアップされ、松山にはこういう素晴らしい大学があるということで、松山に人が流入してきたり、もしくは企業がそのまま大きくなったりすれば、松山の発展につながって人口が増えるということも考えられると思ひました。

【市長】 まさに、そうだと思ひます。千葉大学さんや茨城大学さんの話を教えていただきました。今、愛媛大学さんに来させていただひていますが、確かに起業の面で100%連携ができているのかというところはまだまだ研究の余地があると思ひました。すべてのことを把握しているわけではありませんが、まさに大学世代の方々が就職に直面していくわけで、企業に入られるという形もあれば自ら起業するという形もあると思ひます。市としてどうひうサポートができるのか、ご意見を持ち帰り考えさせてもらいたいと思ひます。

【男性】 法文学部人文学科観光まちづくりコース2回生です。私もテーマ2について述べさせていたひきたいと思ひます。学生が松山に定着するためには、卒業して就職した後の住環境が必要だと思ひます。県外から来ている学生さんは、おそらく学生専用マンションなどの一人暮らしに向いた部屋に住んでいて、いづれ家族や所帯を持つことになるのでそこでは手狭な状況になります。また、現在、色々と松山市街地に高層マンションなどが建っていますが、市内となると地価も上がりますので購入するには社会

人1年目の給料から考えると手が届かない。やはり地元に戻るしかない。そういう考えになると思います。そこで、私は住環境の整備をするのに、三津浜の方にある色々な古建築の空き家を使ったらどうかと思います。この前、地元の方と話したときに、「私の住んでいる家も古建築だけど、今は私が住んでいることで全然スポットを当てられていなくて少し残念な思いがする。」とおっしゃっていました。「私が死んで誰も住まなくなったらこの家はどうなるのだろう。貴重な古建築の家なのでぼろぼろになって朽ちていくのはもったいない。ぜひ誰かに住んでほしい。」ということも言っていました。やはり人が住まないとぼろぼろになりますから、そういった郊外の家や広い古民家の家を活用して不動産を広報すれば、古建築に住めるといふ魅力が松山市にプラスされると思います。古建築の活用を提案させていただいたらと思います。

【市長】 ありがとうございます。松山市では、色々と空き家対策をやっていますが、難しいところがあります。空き家もかなりいい建物があります。家は、住まなくなると途端に悪くなります。できたら住んでほしいのですが、結構手放してくれません。他の人が住むのは嫌だとか、切ない話ですが、おじいちゃんおばあちゃんがだいぶ高齢化してきて、「将来、息子たち娘たちが帰ってくるかもしれない。ほとんど帰ってくる可能性はないけれども、帰ってきたときのために置いておきたい。」となかなかほかの人に貸したくないという意見があります。今、松山市は空き家対策として色々な取り組みをやっていますが、古くなった家は流動性が低いのが現状です。今言われた三津では「三津ハマル」を開設し、三津の魅力にはまってもらおうと、拠点をつくりまして空き家と住みたい人のマッチングを行っています。三津の商店街あたりは、空き店舗になっていたところに新しく店が出てきたりしています。また、松山市では、リフォームに補助が出せるようにしています。だから、同じ思いではないかと思います。こういう古建築は宝です。「たからみがき」のまちづくりをやっていますが、古建築・古民家に住んでもらえるようにマッチングしたり、リフォームに補助ができたりすることは、同じ方向性の考えだと思います。なかなか難しいところがあると思いますが、いい提案だと思います。貴重なご意見ありがとうございました。

【女性】 法文学部総合政策学科4回生です。テーマ3ですが、私はずっと松山に住んでいます。大学生になって県外の友達から、「どこが有名なの。」などと色々聞かれますが、自信を持って言えないというか、どこだろうみたいな感じになることが多く、それは松山市の学生に共通してい

ることではないかと思います。学生は都会と比べてしまうところが多く、松山はそんなにいいところがないのではないかとか、好きではあるけど、栄えている県外の方からしたらどうなのかなという不安もあると思います。そういう面で、故郷の教育になるかもしれないですが、もともと住んでいる人たちが、こういうところがいい、ああいうところがいいというようになれば、人が人を連れてくると思います。海外に旅行に行くことも多かったです。そのときに仲良くなった友達も、もし自分が自信を持って「松山はいいから来て。」と言うと来てくれるとは思いますが、自分がなかなか言えないということが多かったです。でも、都会の人は意外と、松山が気になるのに友達がいないと来にくい面もあると言っていたので、そういう諸々含めて聞きたいと思いました。

【市長】 皆さんには、この松山は全国の中でも非常に恵まれた土地だということを改めて知ってもらいたいと思います。ここは押さえておきたいので、少し時間をもらいます。松山城は、現存12天守といいます。日本の中で江戸時代以前からの天守閣が12だけ残っています。その中の1つが松山城、愛媛でいうと宇和島城。全国の中では、お城がなくなっているところがたくさんあります。大阪城はどうですか。鉄筋コンクリートで、エレベーターまで通っています。昔からのお城はすごく貴重です。あるまちでは、戦争でお城が焼かれてしまい、前の形と違ってでもいいから、とにかく戦後復興でお城を造り、前の形と全然違うようになったお城はあります。昔からのお城が残っている現存12天守。日本にわずか1ダースだけ残っているその中の1つ。国の重要文化財の松山城が宝であるということも知っておいてほしいです。もし、松山城がなかったら、観光客はもっと少ないでしょう。道後温泉本館は120年前の建物ですが、あれがなかったら、もっとお客さんは来ないです。温泉は天の恵み、自然の恵みです。温泉がなかったらどうしていたでしょう。愛媛大学さんや松山大学さんの近くに走っている路面電車のお話をします。全国には市や町や村の数は1,700あります。市の数はおよそ800、町の数はおよそ800。村の数は、それより少なくても200。800+800+200で合計1,800です。今は少し自治体の数が減って1,700ですが、路面電車が通っているまちはどれだけあると思いますか。わずか17です。100分の1都市の割合でしか路面電車が走っていないんです。おじいちゃんおばあちゃんになって、視力や運動能力が落ちる。免許を返納しないといけない、車がないと生活できないというまちがたくさんありますが、路面電車移動できるのが松山です。高齢化にも対応できるし、環境にも配慮できる。お城があり温泉がある。路面電車が走っている。郊外電車も郡中線・高浜線・



横河原線が走っています。バスの路線も充実しています。昔はバスが走っていたけれど、バスがなくなってしまった、郊外電車が走っていたけど郊外電車がなくなってしまったというまちもあります。JRなんて走っていませんというまちもいっぱいあります。今挙げただけでも宝物はいっぱいあります。もともと市内にいた人、市外から来た人、県外から来た人がいますが、松山には色々な宝物がたくさんあります。それに気づいてほしい。松山市は、宝物を生かした「たからみがき」のまちづくりをやっていて、まちづくりには若者が大事と言いましたが、宝物に気づかなかつたらまちづくりを間違えてしまいます。実際にある宝を宝だと思わないで、やみくもにまちづくりをやったら、将来の世代に負担を残すだけです。きちんと宝物と捉えないといけない。まだまだ皆さんに宝が伝わっていない。皆さんに宝をお伝えしていく事業をこれからもやっていかないといいないと思っています。人口減少と言われていますが、東京や大阪に憧れて出て行くのもまたよいと思いますが、故郷を好きになっていないと帰ってくるわけがありません。だから、小中学校の年代、高校生までの間に故郷を好きになってもらわないといけないのです。そのために「ふるさと松山学」といって、今小学校では、松山のことをもっと知ってもらおうと副読本をつくってやっていますが、小学校、中学校、高校の間にとにかく故郷を知ってもらわないといけない、故郷を好きになってもらわないと人なんて絶対帰ってこないと思っています。そこが大事じゃないかと思っています。

**【女性】** 観光まちづくりコース3回生です。3番のテーマについてですが、最近「みんなの広場」というところがありましたよね。今年の夏から「みんなの広場」を制作する過程に携わらせていただき一緒に話し合いをさせていただきました。こういう機会は初めてで、自分たちの意見を自由に言い合って、それが実際に実現されるのかとずっとわくわくしていましたが、結局できたものは私たちの意見はほとんど取り入れられず、元から計画されていたようなものしかなかったんです。ですので、タウンミーティングでもそうですが、私たち学生が色々な意見を出していく中で、その意見も市長さんが今行っている計画にすべて当てはめているというか、私たちの意見を聞いて、それによって1から新しいことや行事などが始まるということが本当は行われていないのではないかと思います。せっかくこのように直接学生と市の方とが話し合う機会を設けていただいたのなら、実際に私たちの意見をもっと反映させてほしいと思います。

**【市長】** 学生さんの意見もすごく貴重です。松山市は、長年学生による政策論文をやっていますが、これも私から直接指示をしています。確かに

いいアイデアをいただけますが、実現性が難しいものもかなりあります。学生さんたちは自分たちが言ったことが形になったらものすごく嬉しいだろうと思い、できるだけ学生さんの意見を反映するようにしてくださいと市長から指示をしています。このタウンミーティングは何のためにやっているかという、ガス抜きやパフォーマンスのためにやっているわけではありません。できるだけ反映するためにやっているのだから安心してください。しかし、なかなか形になりにくいものもあるということをおぼえていただけたらと思います。実は、もう1つ進めようと思っています。ファンド基金というものですが、実は松山市の企業さんの中で、お金の面でサポートするという企業さんがいます。公のお金でやるのは難しいけれど、学生さんたちから意見をもらって、お金はまちづくり基金、ファンドから出してという形を今考えているところです。それくらい皆さんの意見を反映したいと思っていますし、次の策がないかと考えていますので、安心してください。私が就任する前から学生さんの意見をできるだけ反映していこうという形でやっていますし、私も思いは一緒です。そして、時代に合わせてもう1つ突っこんでいこうと考えています。

**【女性】** 法文学部総合政策学科4回生です。テーマ3で市と連携してできることを提案したいと思いましたが、観光に力を入れたいということなので学生がツアーを考えてみるのがおもしろいのではないかと思います。学生が自分たちでツアーを考えるには、松山の魅力を自分たちで探していかないとはいけません。県外の学生も松山市に住んでいる学生も魅力を知らないことが多いので、自分たちで魅力を見つけてツアーを考えて、外国の方や日本の方でもいいですが、そういう人たちの反応を見ることで学生もよかったと思えるし、また学生が思いついたことなので若者も来てくれるかもしれないと思うので提案させていただきました。

**【市長】** ありがとうございます。今、観光というのは、「うちのまちにはこういういいところがあります。こういうおいしい食べ物があります。来てください。」で終わっている自治体が結構多いと思いますが、松山の観光は交通事業者さんと一緒になってやっています。例えば、今日JR四国さんと協定を締結させていただきましたが、平成21年からの協定がまた継続になりました。大手旅行会社JTBさんや日本旅行さんや近畿日本ツーリストさんや名鉄観光さんや農協観光さんやトップツアーさん、昔東急観光と言っていたんですが、こういうところと一緒に新しい旅行商品を生みだしています。結構頑張っているのではないかと思います。もう1つ、冒頭に留学生の方と学生の方が連携できないかと申し上げましたし、

起業の話も出てきました。企業の事もそうだし、観光の事でもそういう勉強を専攻されている学生さんもいらっしゃるし、それに長けた先生もいらっしゃるのによく存じ上げていますので、この辺でもまた連携させていただき、やらせていただきたいと今日改めて感じました。

【男性】 法文学部3回生です。僕たちはゼミで金沢市に行きました。そこで、「金沢学生まちづくり会議」という団体があり、市から委託されて学生が自分たちで考えて金沢の資源などを頑張っアピールしていて、学生が学生にPRしていくという団体があります。そこで、僕が言いたいのは、それを僕たちにやらせてくださいということです。その会議を金沢市がバックアップしていますが、それほど介入しないで本当に自由にやらせているという感じなんです。だから、僕たちにもぜひやらせてもらいたいなと思っていて、今日、野志市長さんにそれだけを言いに来ました。

【市長】 やりますか？

【男性】 はい。僕は、ぜひやらせてもらいたいと思っています。

【市長】 また、金沢市さんの例などを教えてもらってどういう連携ができるのか、どういうふうに行っているのかを考えさせていただき、検討させてもらえればと思います。

【女性】 法文学部総合政策学科4回生です。テーマ3で障がい福祉についてのことですが、愛媛大学には聴覚障がいの学生がいて、私は音声情報を文字で伝えるボランティアをしています。実際に、社会福祉協議会ではお手伝いの講座を開かれています、その講座は1回2時間を44回受けなくてはなりません。これでは気軽に受講することは難しいと思います。学内であれば90分を3回ほど受ければ実践に移ることができますので、お手伝いの学生を学内だけでなく市と連携して市内へと派遣していただければと思います。これも1つの言葉の力になるのではないのでしょうか。

【市民部長】 確認ですが、社会福祉協議会で視覚障がいの方のお手伝いをする受講に時間がかかるということですか。そして、大学では短時間でできるということですか。その実態がよくわからないので、ここで明確なことは申し上げにくいんですが。

【市長】 授業ということですか？

【女性】 ボランティアサークルが開催していて、そこに行けば3回ほど受講すれば実践でお手伝いすることができます。

【市民部長】 わかりました。社会福祉協議会の実態を把握していませんので、その把握と含めて後の時間で詳細をお伺いさせていただいてよろし

いですか。その上で両者の状況などを確認いたしまして、どのようにできるのかを検討させていただきたいと思います。ありがとうございます。

【男性】 法文学部3回生です。最後に、今日のタウンミーティングの全体について、意見があるので言わせてください。僕が思ったのは、もう少し仕方を変えるべきだと思いました。これだけ人数がいるので、例えば4、5人のグループワークなどにしてまとめた意見を発表して、市長に答弁してもらわないとこれだけ意見を持っている学生がたくさんいるのに、もやもやしたまま帰ってしまう状況にあると思います。そのようにグループワークにされて、そこに部長さんや課長さんがいるので、例えば一緒に入って意見を交換するなどしたらいいなと思いました。以上です。

【市長】 いい提言をいただいたと思います。常に物事にパーフェクトはないので、このタウンミーティングのやり方自体も、改善が大事だと思いますので、またやり方も考えさせていただきたいと思います。所定の1時間半がきますので、締めのお話をさせていただきたいと思います。最初の人に、手があまり挙がらなかったのも、松山弁でいうところの「よいよい」と思いました。「大丈夫かな、5時まで持つかな」と思いましたが、やはり言っていたとおおり、最後になったらどんどん手が挙がるようになって言えなかったということになりました。実は私の娘もこの春から大学1年生になりましたので、皆さんの親世代でもあります。今日何度か感じましたが、若い人が言ったとしても、年を召された人が言ったとしても、専門家が言ったとしても、誰が言っても色々な意見があるから100点満点のパーフェクトな意見なんてないんです。だから自信持って、今まで生きてきた中でこれが私の意見だと思えることを言えばいい。そして、人から言われて、「あ、違うな。」と思えば訂正すればいい。人生は、その繰り返しだと思います。だから、そんなに遠慮することはありません。そして、今日はせっかく皆さんの意見をいただける機会なので、後ろにこれだけの職員が来ています。冒頭で言いましたが、やはり市は市・県・国の中で一番近い行政です。皆さんの声を反映しないと意味がない。実現がなかなか難しいものもありますが、実現に向けてやっていくのが我々の務めだと思いますので、できる限り今日の意見を反映していきたいと思っています。できることはできる、できないことはこういう理由でできないという説明するのもまた市役所のやるべきことだと思いますので、またよろしくお願いたします。意見を言って終わりではなくて、動くのが大事なことです。冒頭に言いましたが、2万人いる学生さん。まず、この2万人が前向きな考え方をするのか後ろ向きな考え方をする集団かで違います。2万人の人たちが動いてくれたら全然違いますね。動く人、動かない人、文句は言うが動か

ない人、人の足を引っ張る人、色々な人がいると思いますが、やはりまちのことを考えて動いてくれる存在はすごく大事。まだまだ皆さんは、これまでの人生は短いから、そんなにパーフェクトな答えが出るわけではないですが、また自信を持ってまちづくりに力を貸してもらえればと思います。手話のことが出ました。聴覚障がいの方は、手話や筆記になりますよね。私も手話を習いたいと思っていますが、人とコミュニケーションがとれるようになったら嬉しいです。手話ができて伝わった、ニコッとした表情をしてもらえたら嬉しいです。みんなやれることはたくさんあります。最後に、やはりまちについて考えてもらうこと、動いてもらえることは非常にありがたいので、そういう契機になったらなと思います。「たくましくあれ」という言葉を最後に残させていただき終わりにしたいと思います。私は松山の人間で、大学は地方の国立大学に進みました。東京や大阪の大学に進んだわけではありません。東京や大阪は確かに派手ですが、それですべてが決まるわけではない。愛媛大学さんは、地方の中でも光る存在だと思っています。皆さんは松山にいますが、松山だけの話ではありません。愛媛、日本、世界を相手として、あるときは戦わないといけないこともあるかもしれない。4回生の学生さんもいましたが、就職試験はまさにそうです。松山の人だけと競うのではないですよ、愛媛の人だけと競うのではないですよ。全国の人と競うこともあるかもしれない。海外とのお付き合いもあるでしょう。「たくましくあれ」。公に何かやってくださいと求めるのではなくて、人に頼るのではなくて、自分で動けることはないだろうか、自分で考えられることはないだろうか、自分で何かできることがあるのではないかと考えてもらうとまた違ってくるのではないかと思います。今の話は難しくてわかりづらいこともあるかもしれませんが、そんなことを市長が言っていたなと思い出してもらえればと思います。今日、色々な意見をいただきました。また、まちづくりについて考えてもらえればと思います。今日は、本当にありがとうございました。

— 了 —